

平成 27 年の仕事始め式に当たり一言ご挨拶を申し上げます。

新年明けましておめでとうございます。

皆さん方にはそれぞれに新春の幕開けを決意も新たにお迎えになられたこととお喜び申し上げます。

昨年末に発生した巻き網漁船の沈没事故につきましては、年末年始を通じて捜索現場や関係機関等との連絡調整にあたった職員各位におかれては、地域において重苦しい空気に包まれながらも関係者家族に対し誠意をもって情報収集やメンタルケアなど、できる範囲での不安解消など努力していただき心よりお労いを申し上げます。

亡くなられたお二人のご冥福と、行方不明者の一刻も早い救出を皆様と共に祈りいたします。

さて本年は平戸市が合併して 10 周年の節目の年であります。

振り返れば、10 年前の平戸市と今の平戸市は劇的に変化成長し、そして今もなお進化し続けていると実感しておりますし、そのような躍動感が感じられるというような声を周辺の自治体や県人会の方々から多く寄せられています。

例えば「歴史とロマンという掛け声だけだった平戸市は、独自の歴史の価値を磨き上げ魅力あるものとして発信している」とか「古臭い保守的なイメージだったが、あらゆる先駆的な取り組みに積極果敢に取り組みお手本となる先進自治体になった」とか「訪れるたびに変わっているし魅力が倍増している」などというものです。

毎日をこうした変化の渦中にいる私たちには敏感に感じることは少ないのかも知れませんが、客観的に見ておられる外部の方々の中にはそのように映るのかもしれない。

確かに昨年だけでも平戸市が全国的に注目された事例は数多くあり、ふるさと納税に象徴されるように知名度アップとともにその手応えが幅広く伝わっています。

ただし私たちは、これに慢心しその進化を緩めるわけにはいきません。相変わらず深刻化する少子高齢化とこれに伴う行政課題は否応なく目の前に立ちはだかり、将来負担へと重くのしかかってきます。

私たちは、昨年 9 月に平戸市人口減少対策本部を設置し、その後、国の施策と連動しながら新年度予算編成について関係各課において協議を進めていると思いますが、まさにここからが正念場なのです。

今年の干支は「ひつじ」です。

古来より豊作への願いが込められており、また群れをなすことから「家族の安泰」や「平和な暮らし」を意味するものとされています。

私たちはこれまでの数々の実績を基盤にして、市民の皆様がより安全で安心して暮らしていただけるようなまちづくりを築いていかなければなりません。すでに自治会ごとに様々な危険を想定して自主防災組織がそれぞれ編成されつつありますし、また自治体内分権として地域の自主自立を促す地域コミュニティ事業も度島を第一号として各地で組織化されつつあります。

そうした中、特に今年は、懸案であった二つの大型事業、市民の安心安全の中核拠点である消防庁舎と市民の生涯学習や文化、出会いの場、チャンスを生み出す情報中枢拠点である（仮称）総合情報センターが完成を迎えます。

こうした公共機関を活用し、そして行政職員皆様の心のこもった奉仕の精神によって、市民の皆様がそれぞれの立場で支えあい励ましあいながら家族の絆をより強固なものにし、笑顔に包まれる社会づくりを実現していくことこそが、真の意味で人口減少対策につながるものと確信します。今年が羊のように丸々とふくよかでぬくもりのある地域社会となって、実りの実感を称え合いながら安全で安心できるまちづくりをともに実現してまいりましょう。

結びになりますが、本年が平戸市民の皆様にとって、素晴らしい年になりますことと、併せて職員各位のご奮闘を期待申し上げ、年頭のご挨拶といたします。

終わります。